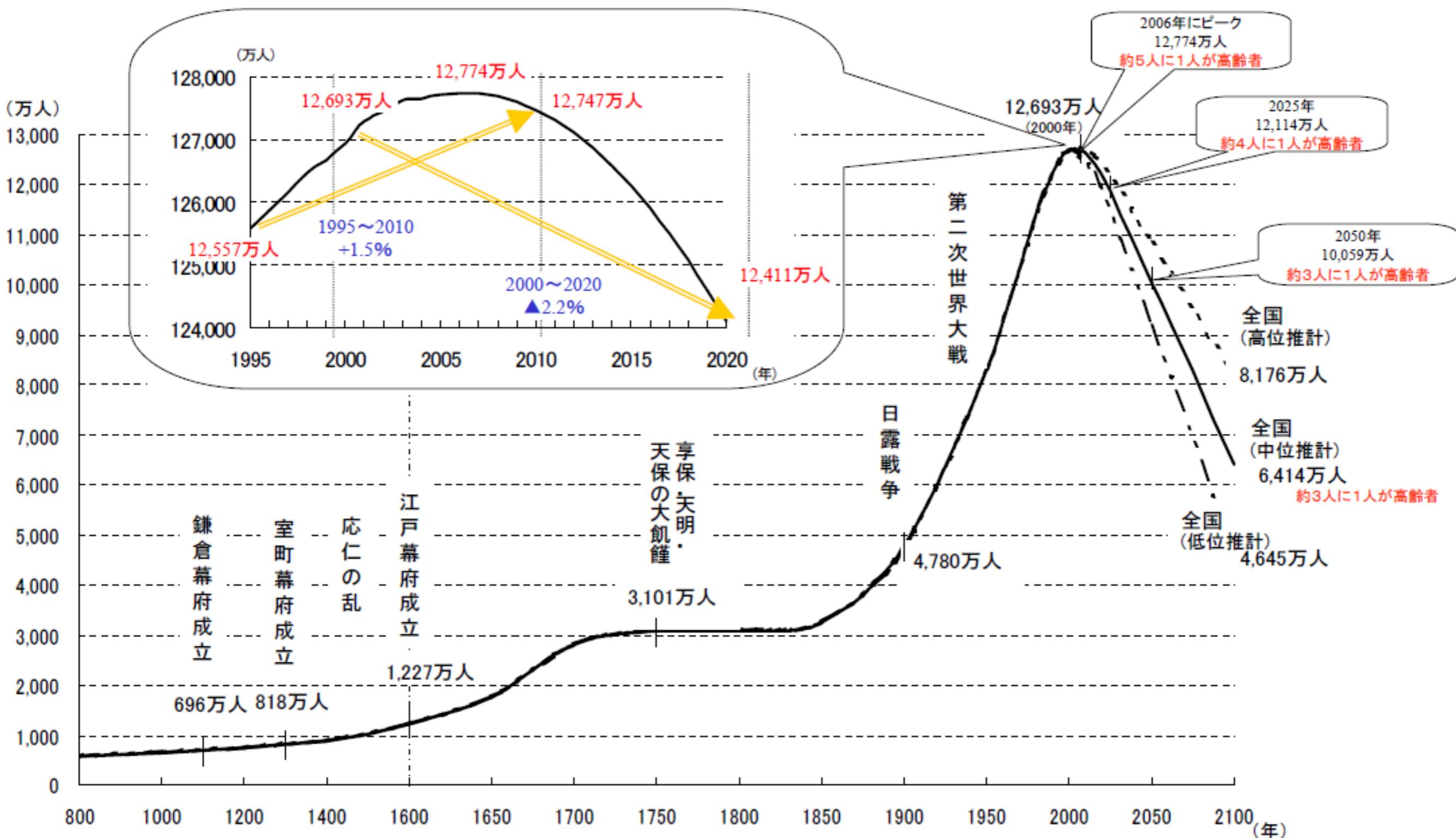


立地適正化計画

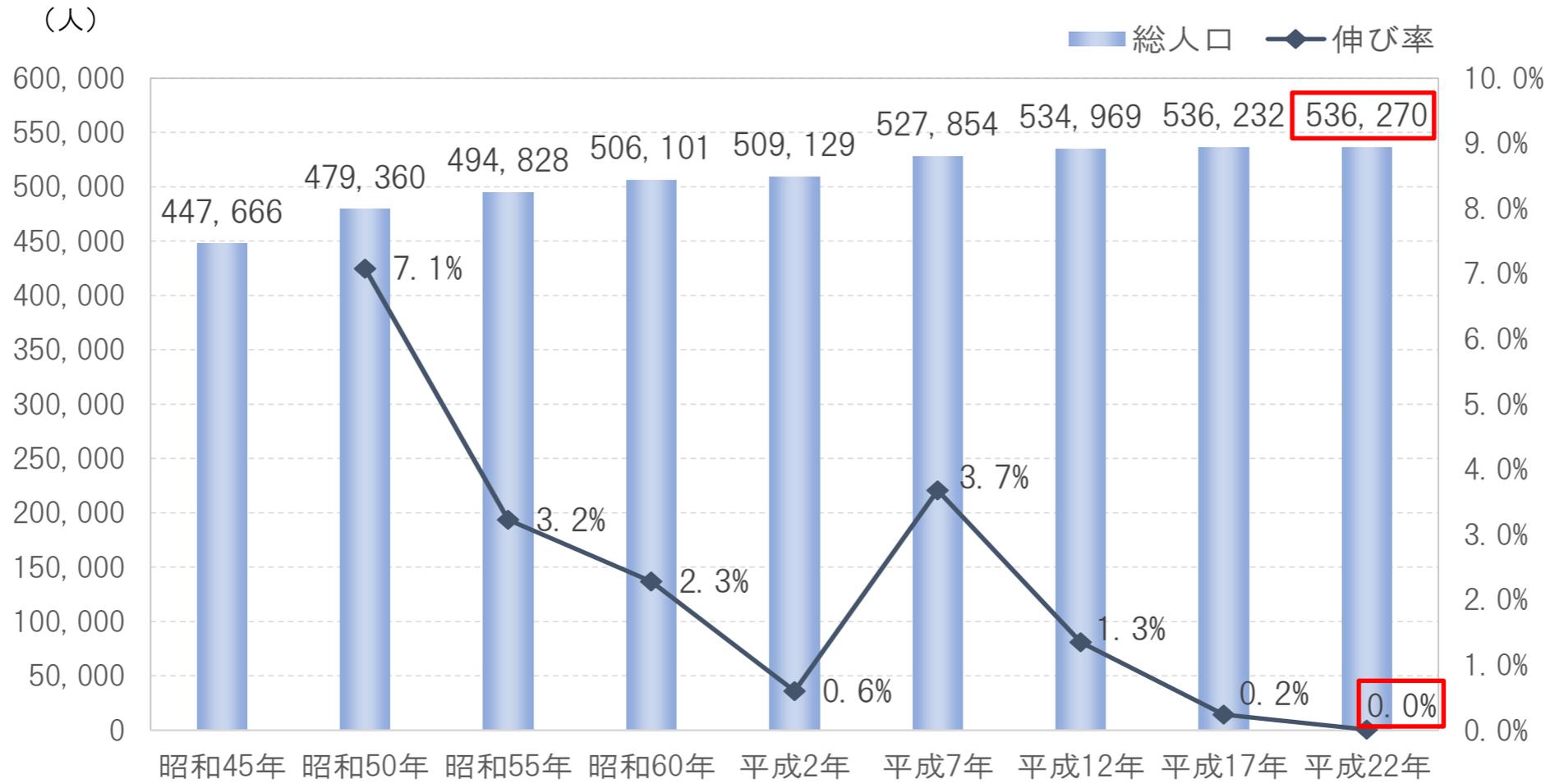
長期的人口推移及び推計値



(出典) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布変動の長期時系列分析」(1974年)をもとに国土交通省国土計画局作成。

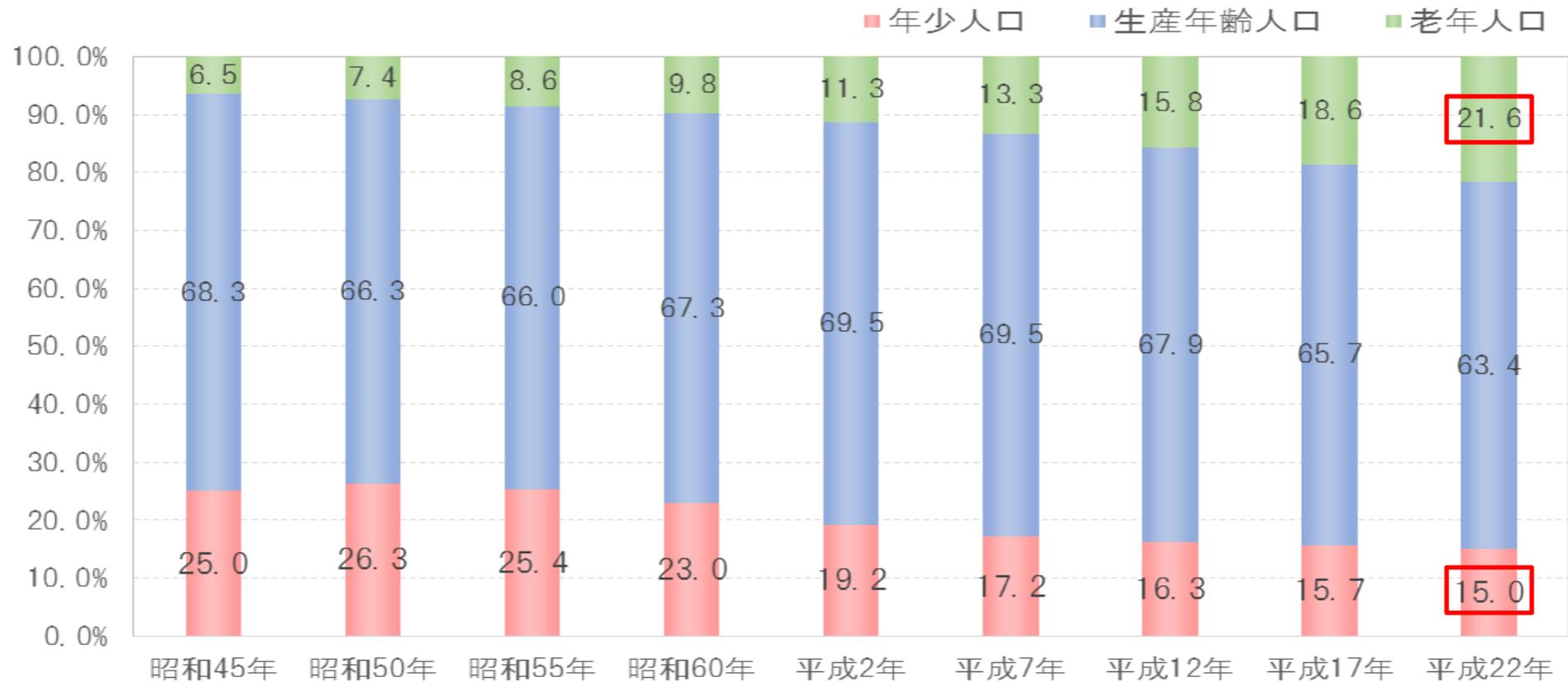
姫路市の人口

人口推移



平成27年国勢調査
535,664人

年齢階層別
人口構成比



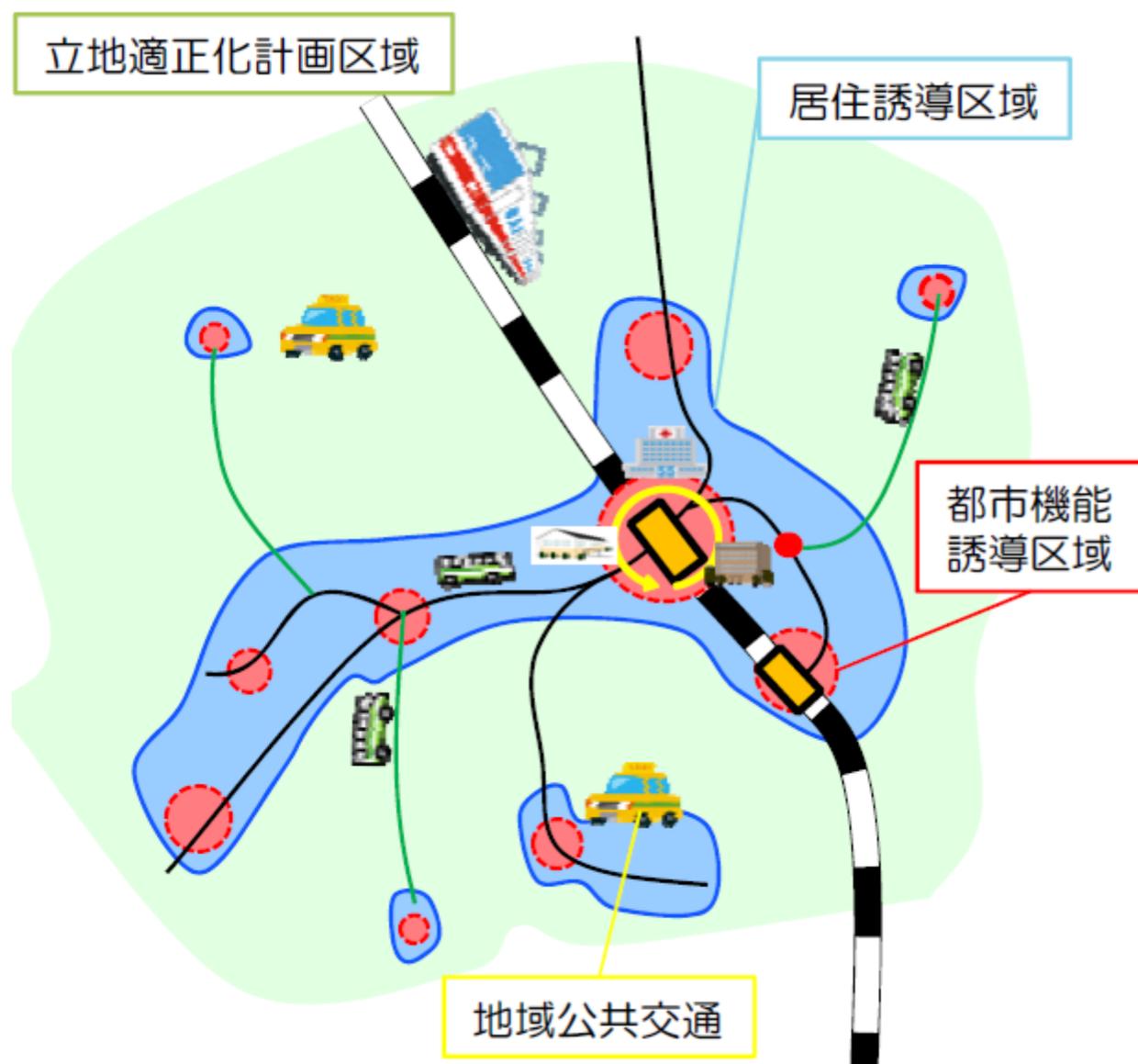
立地適正化計画とは

策定の背景

- ① 人口減少・高齢化
- ② 低密度な市街地の形成 等 の問題

➡ 都市再生特別措置法の改正

➡ 立地適正化計画 ➡ 人口減少に対応したまちづくりの方針



計画に定める3つの区域

- ① 都市計画区域全域に
立地適正化計画区域を設定。
- ② 市街化区域内に
居住誘導区域を設定。
- ③ 居住誘導区域内に
都市機能誘導区域を設定。

計画に定める項目

- ① 都市機能増進施設を設定。

広域連携 複数自治体による広域的な立地適正化の方針の策定

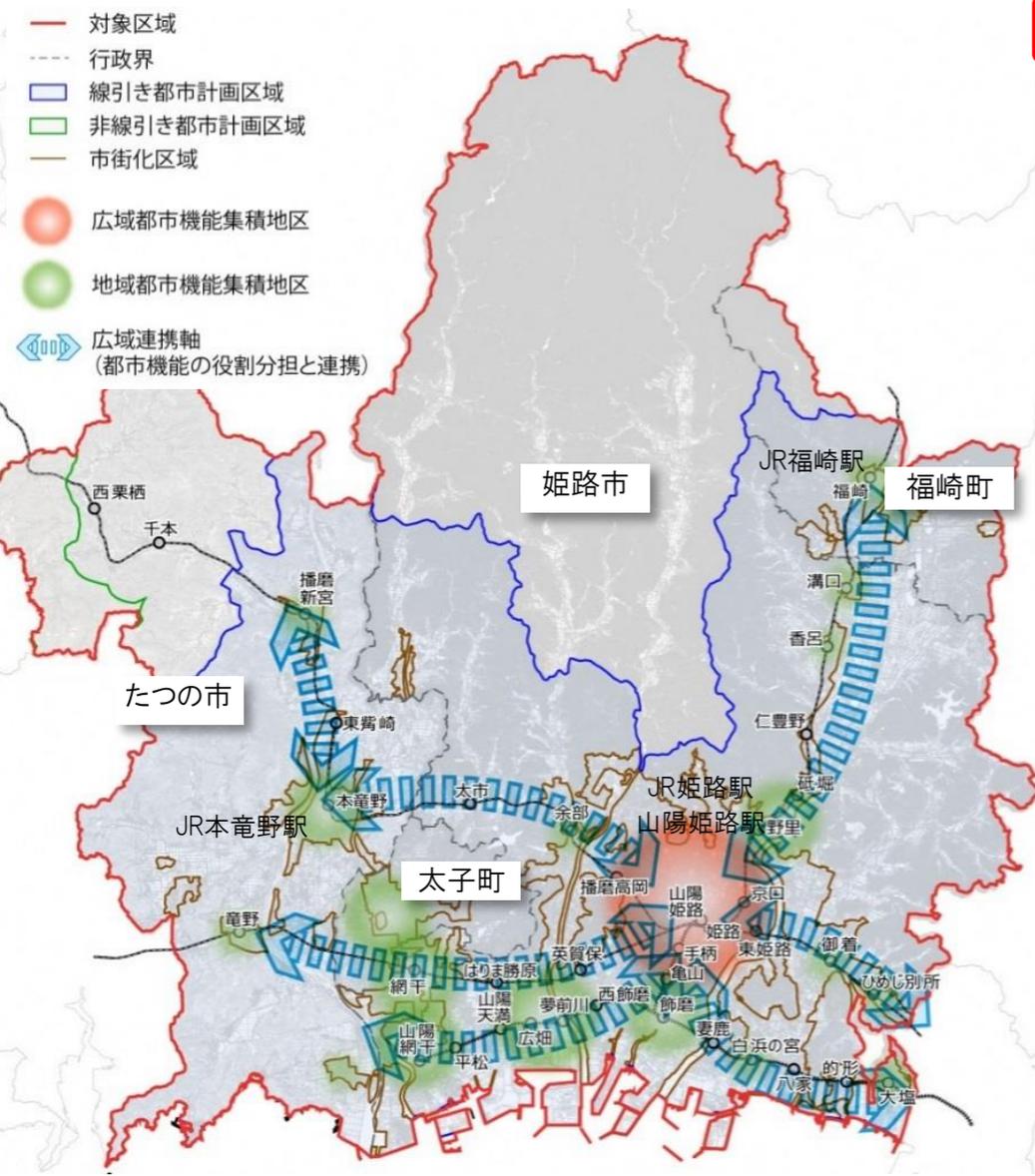
背景・課題

- 人口減少・高齢化を背景に、鉄道路線を軸として沿線自治体が必要な都市機能を分担・連携することの必要性が増大。
- 平成27年以降、沿線自治体や交通事業者からなる勉強会・協議会を設立し、各都市の役割分担や連携のあり方について検討。

- 広域的な都市機能の集積を図るべき地区を姫路駅周辺、その他の地域的な都市機能の集積を図るべき地区を各拠点に設定し、公共交通の利便性や現状の施設立地状況を踏まえつつ、高次都市機能増進施設の役割分担を整理し、公共交通事業者も参加して広域方針を作成。
- 公共交通事業者と協力して今後の公共交通の利活用促進を目指しつつ、広域方針と整合した立地適正化計画を各市町ごとに作成。

○立地適正化計画及び地域公共交通網形成計画の策定状況

都市名	立地適正化計画	地域公共交通網形成計画
姫路市	H30.3	H28.2
たつの市	H29.3	H29.3
太子町	H30.7	-
福崎町	H29.3	H30.3



役割分担 【都市機能の役割分担と連携(都市機能集積地区の位置づけ)】

広域都市機能集積地区(姫路駅周辺)

姫路駅前に大規模店舗、医療系専門学校を誘致、民間病院と公営病院を統廃合等により、高度で多様な都市機能の強化を図るとともに、国際競争力の強化や県を代表する顔としてふさわしい風格のある都市空間の形成を図る。

姫路市(姫路駅周辺)

地域都市機能集積地区

広域都市機能集積地区と連携しつつ、広域行政機関(国県機関)、高度医療施設、大規模商業施設等の高度な都市機能を役割分担し、維持・充実を図る。また、他の地区との距離を勘案した配置や、連携による相互補完についても考慮する。

姫路市(飾磨駅、野里駅、網干駅、山陽網干駅、広畑駅・夢前川駅、はりま勝原駅等)
たつの市(本竜野駅・市役所周辺、竜野駅等)
太子町(役場周辺)
福崎町(福崎駅、役場周辺)

<高次都市機能増進施設の設定及び役割分担>

分野	高次都市機能	役割分担
医療機関	三次救急医療機関(救命救急センター)	姫路市
	二次救急医療機関	姫路市・たつの市
教育機関	大学	姫路市・福崎町
	短期大学	姫路市
	専修学校	姫路市
スポーツ施設等	総合公園	姫路市・たつの市・太子町
主要コンベンション施設		姫路市
商業施設	百貨店、大型SC等	姫路市・たつの市

●周辺都市との公共交通施策の連携

福崎町地域公共交通網形成計画

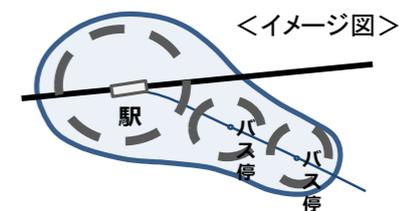
姫路市と連携し、公共交通空白地で新たなバス路線を運行することで、福崎町、姫路市の双方にある移動・通勤等需要や、潜在的な利用者の創出を図る。

○広域での地域公共交通網形成計画

令和2年度の姫路市地域公共交通網形成計画の改訂にあわせて、2市2町での広域的な交通の方針の作成に向けて調整中。

居住推進 【公共交通利便性の高い区域への居住推進】

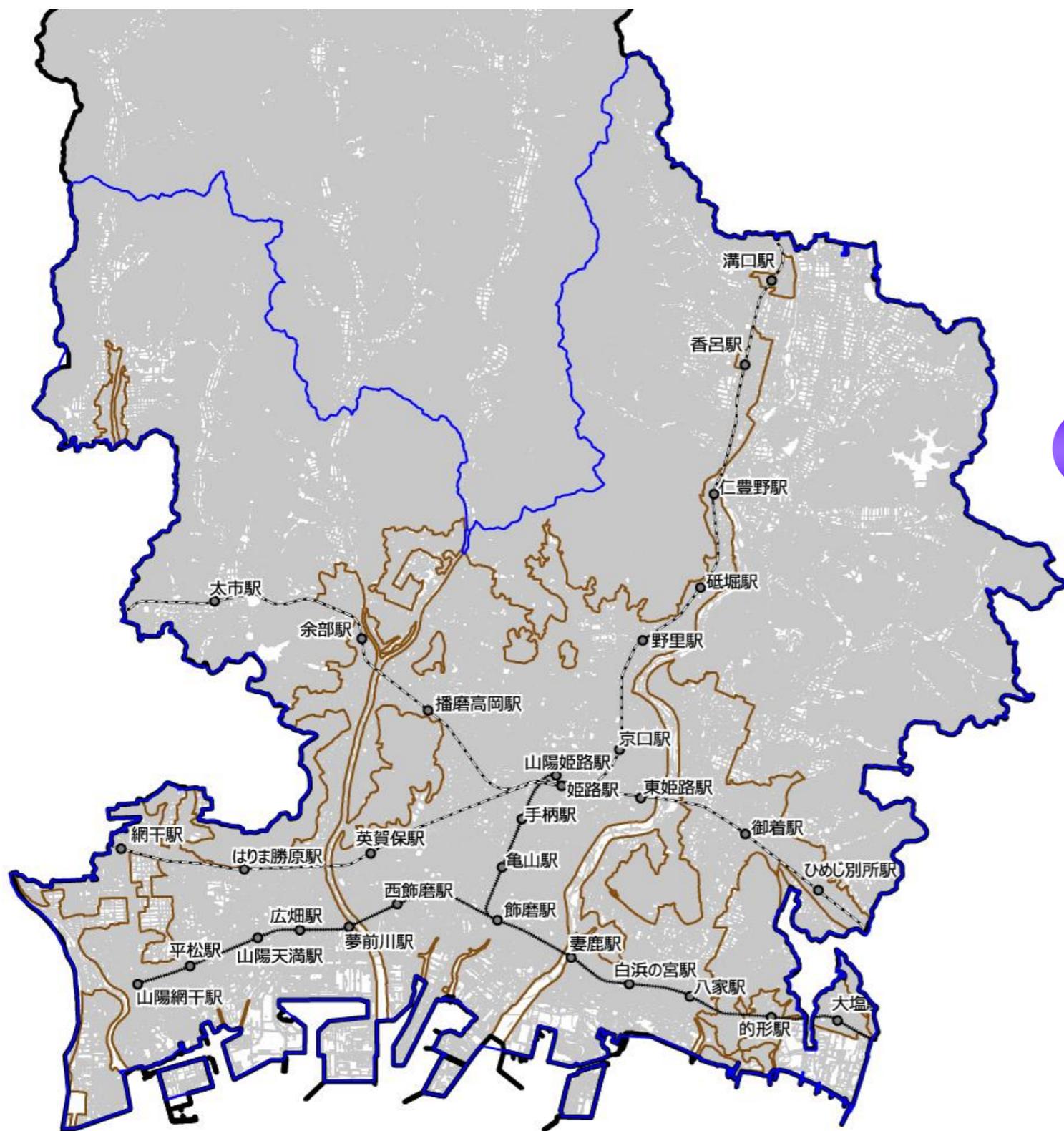
- 鉄道駅等周辺に集積する広域・地域都市機能の利便性を活かした居住の推進を図る。
- 鉄道駅からの徒歩圏や、鉄道駅にバス利用でアクセス可能な圏域を基本として、各都市が居住誘導区域を設定。



- 居住誘導区域
- 徒歩等利用圏域

対象区域と計画期間

対象区域



—— 都市計画区域

—— 市街化区域

計画期間

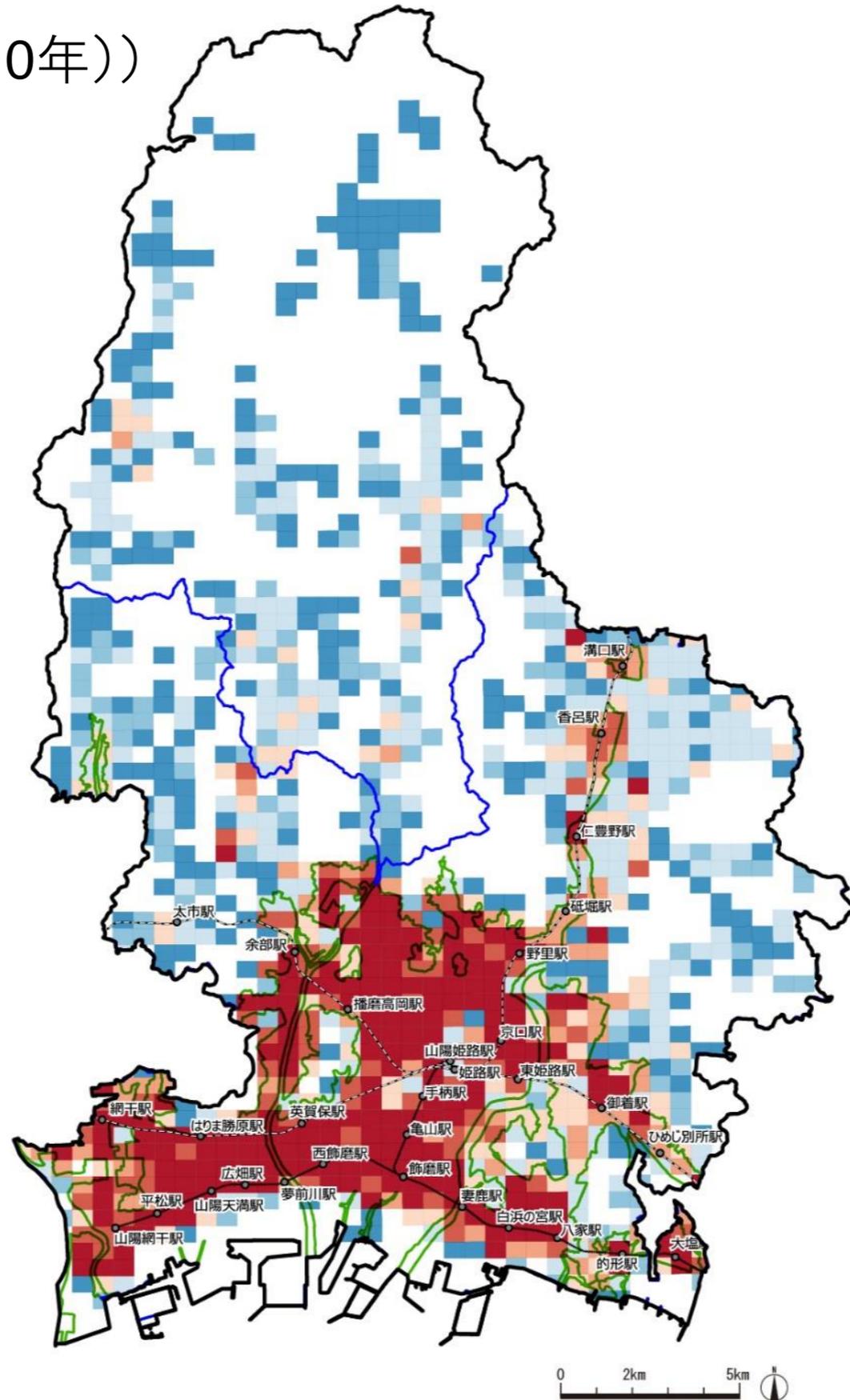
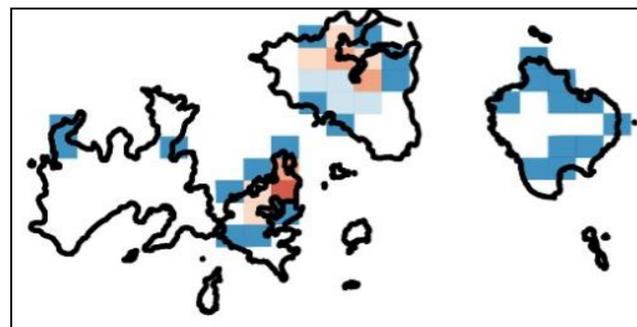
「姫路市都市計画マスタープラン」と同じく、

平成42(2030)年

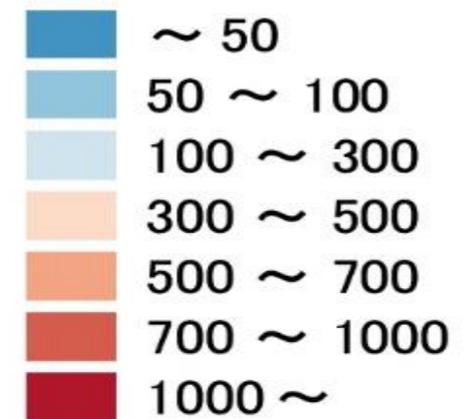
(長期的に平成52(2040)年も見据える)

姫路市の人口分布

現況人口(平成22年(2010年))



(人)



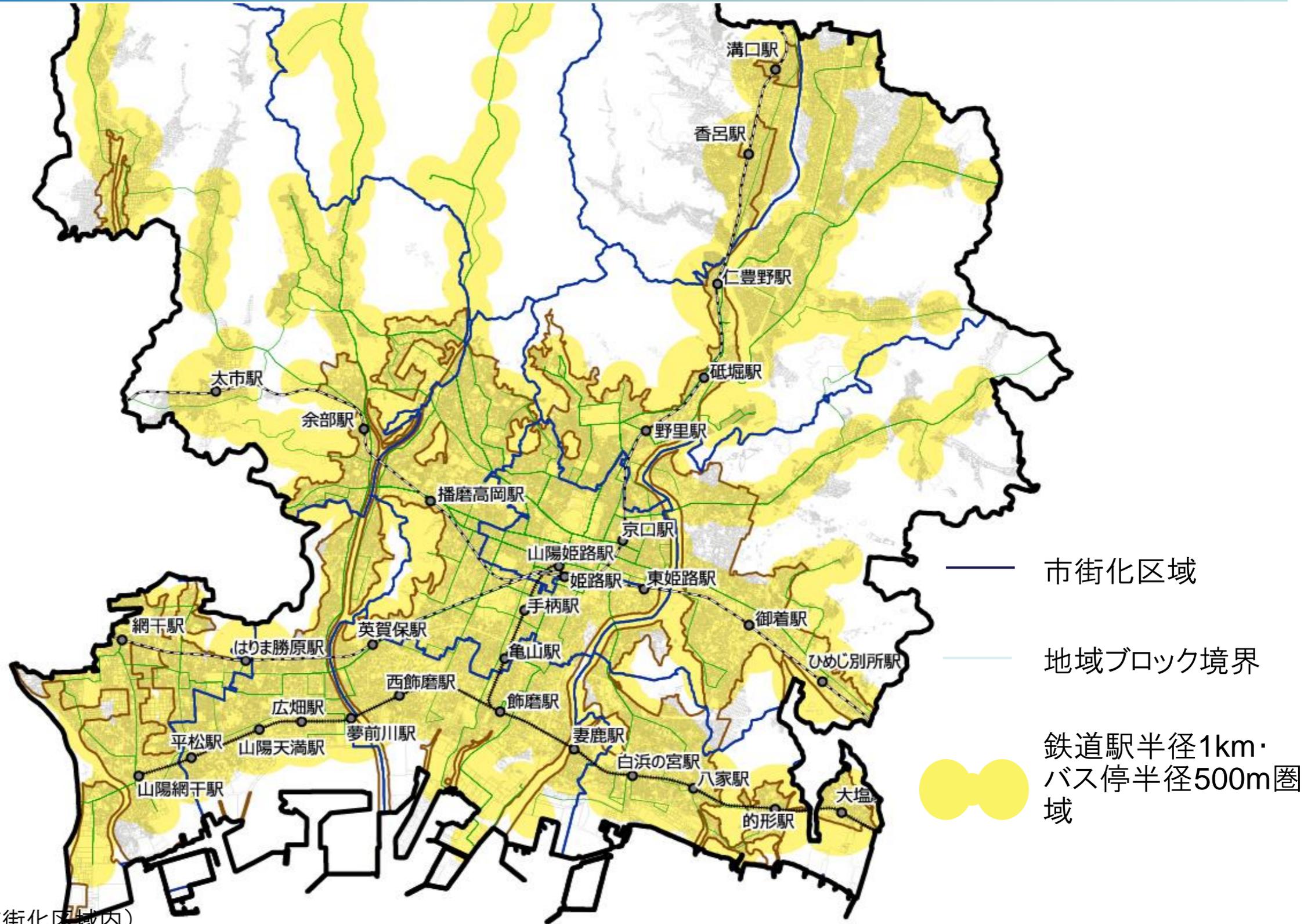
※500mメッシュ

— 都市計画区域

— 市街化区域



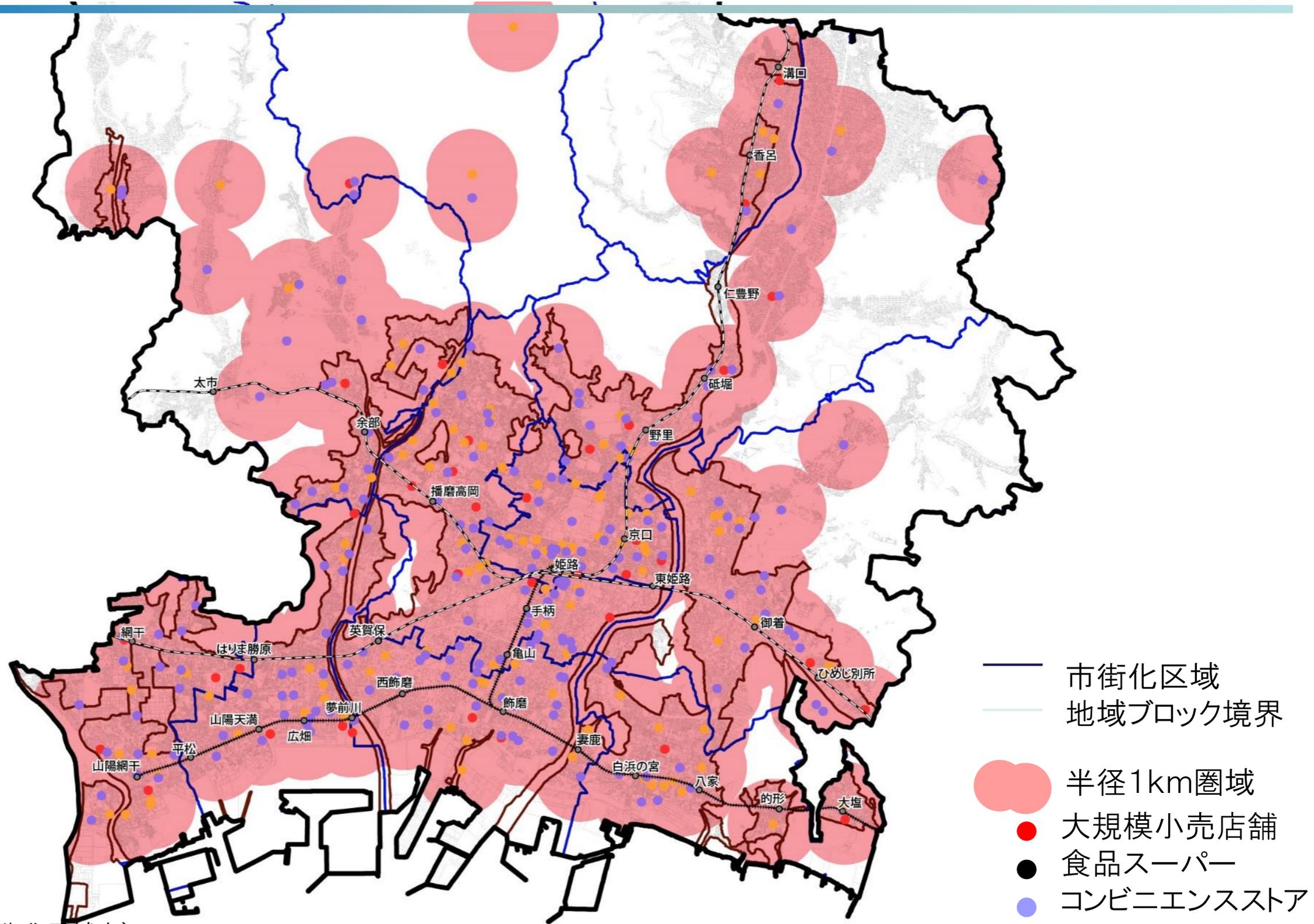
姫路市の現状(公共交通)



利用しやすい人の割合(市街化区域内)

鉄道	バス	公共交通圏
56.6%	90.8%	97.3%

姫路市の現状(商業施設)

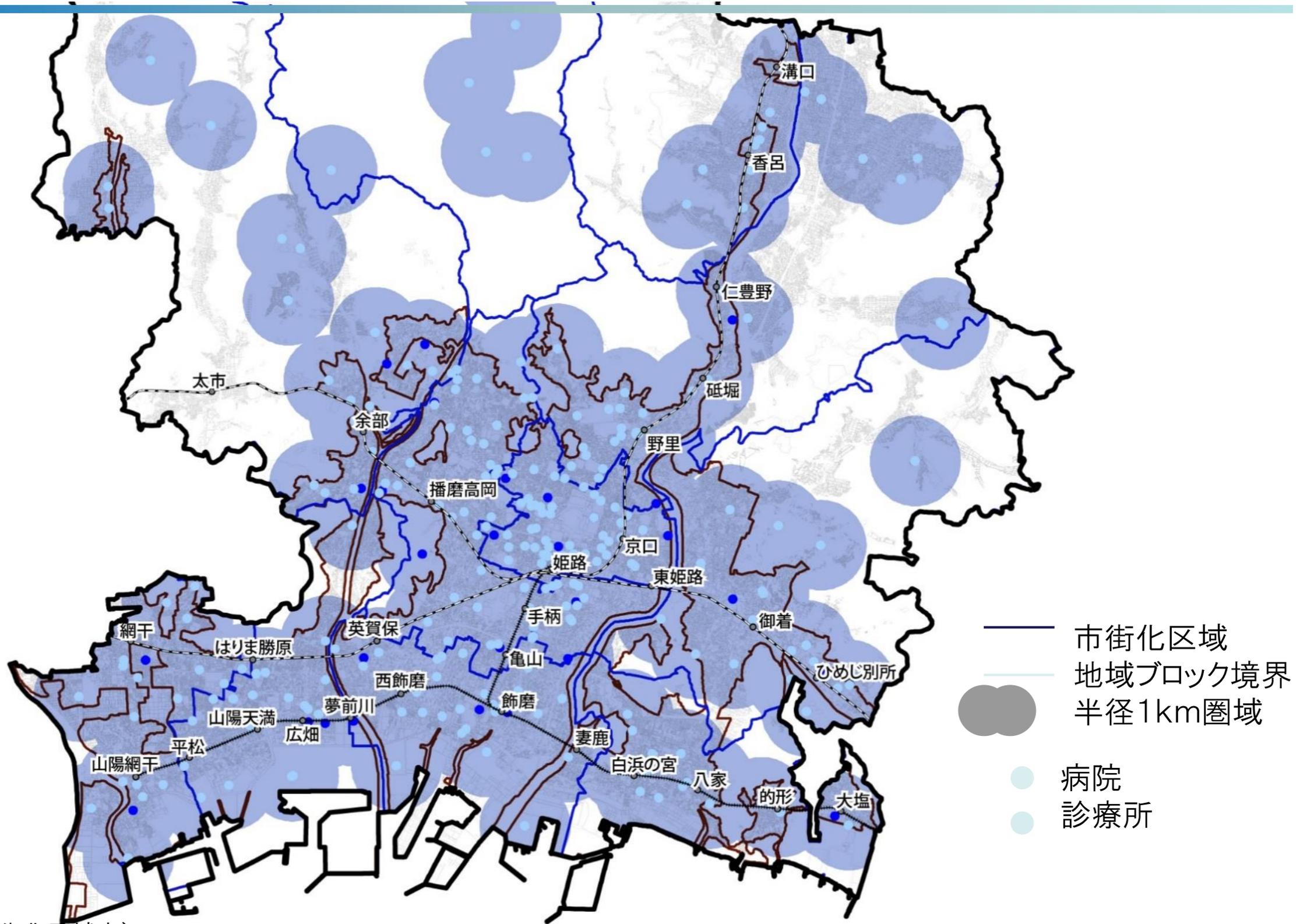


利用しやすい人の割合(市街化区域内)

大規模小売店舗	食品スーパー	コンビニエンスストア	生活利便施設圏
64.1%	91.5%	94.8%	95.8%



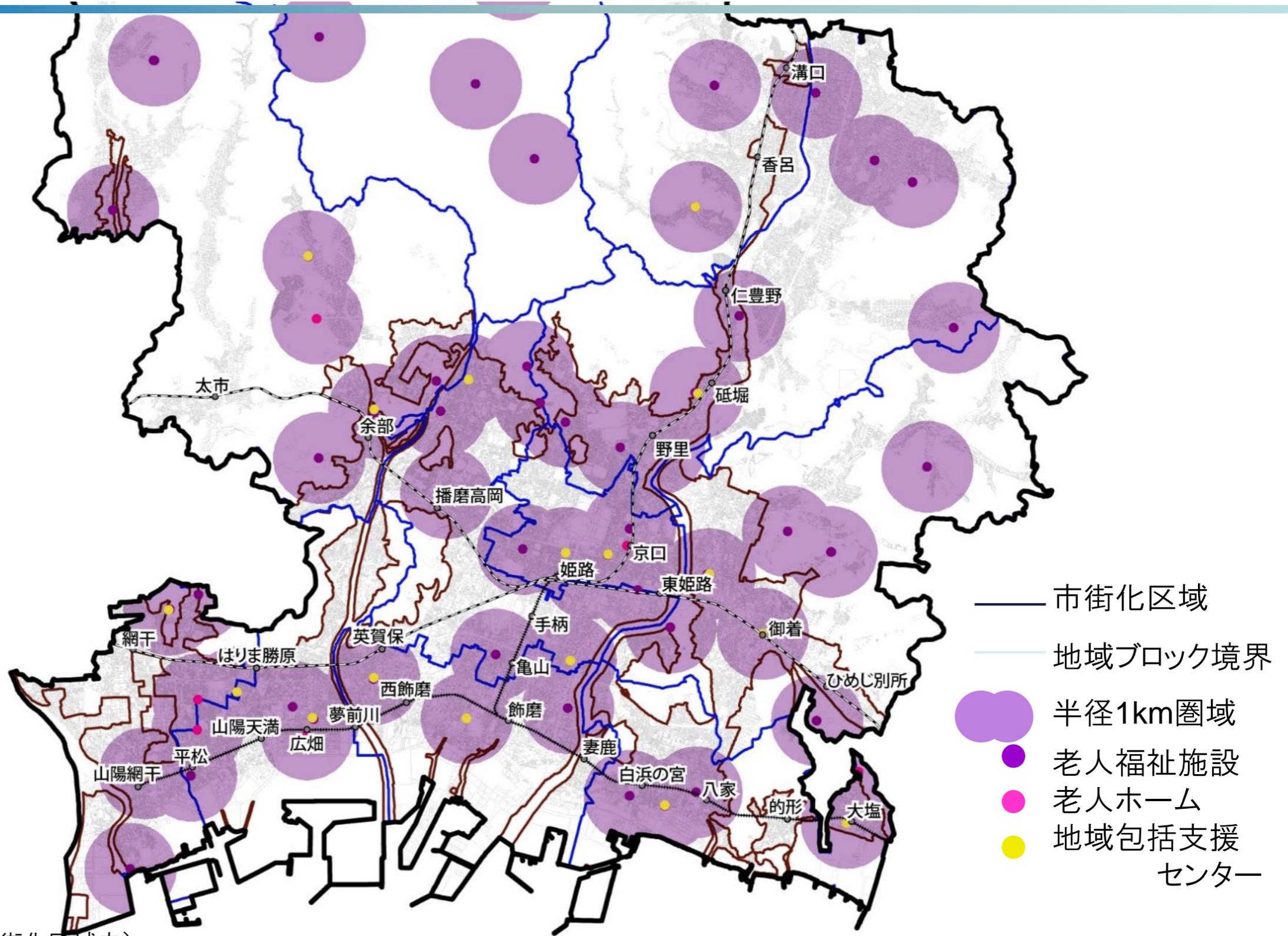
姫路市の現状(医療施設)



利用しやすい人の割合(市街化区域内)

病院	診療所	医療施設圏
56.1%	98.3%	98.7%

姫路市の現状(福祉施設)



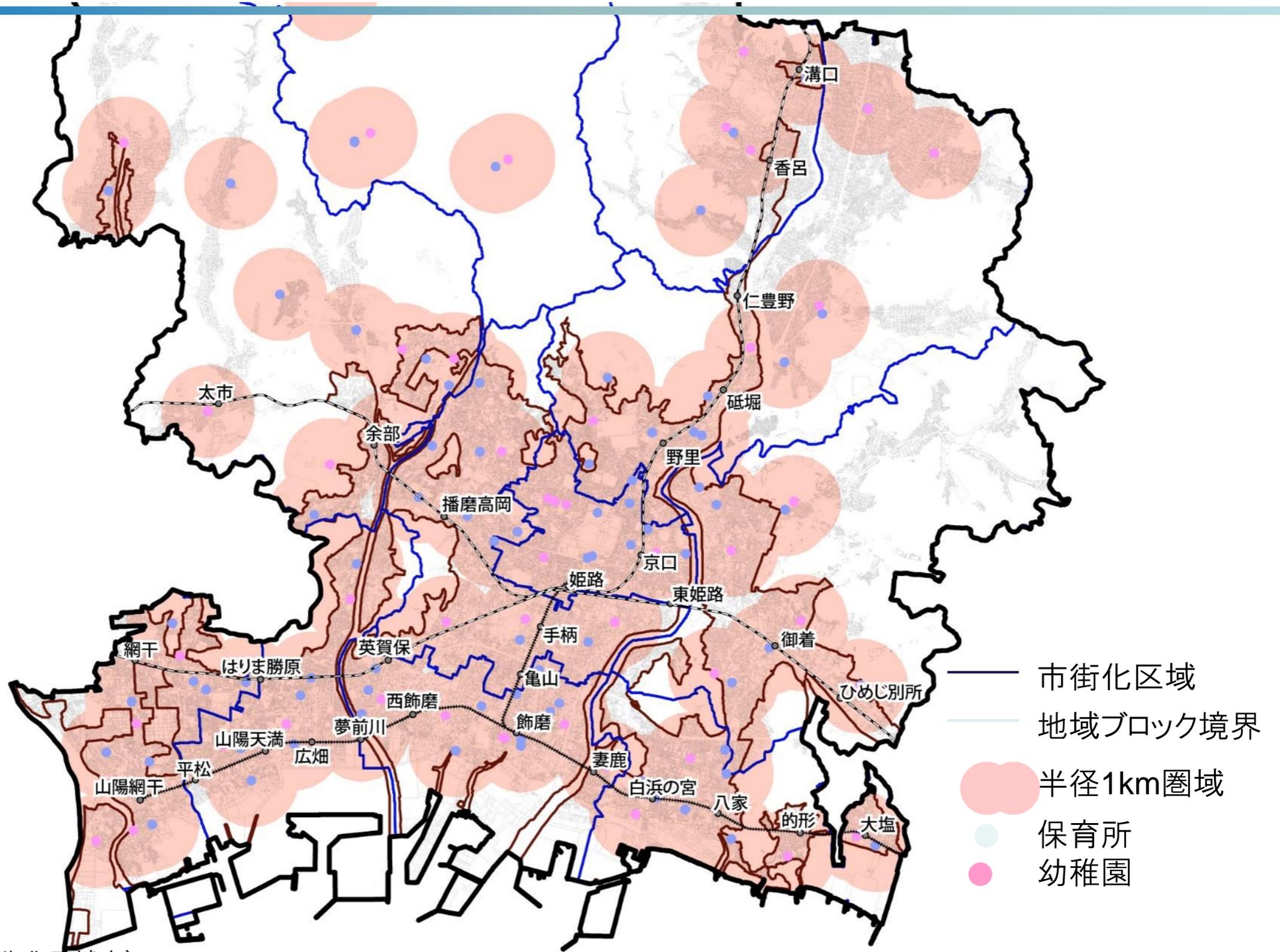
- 市街化区域
- 地域ブロック境界
- 半径1km圏域
- 老人福祉施設
- 老人ホーム
- 地域包括支援センター

利用しやすい人の割合(市街化区域内)

老人福祉施設	老人ホーム	地域包括ケアセンター	福祉施設圏
58.3%	14.5%	46.1%	72.7%



姫路市の現状(子育て支援施設)



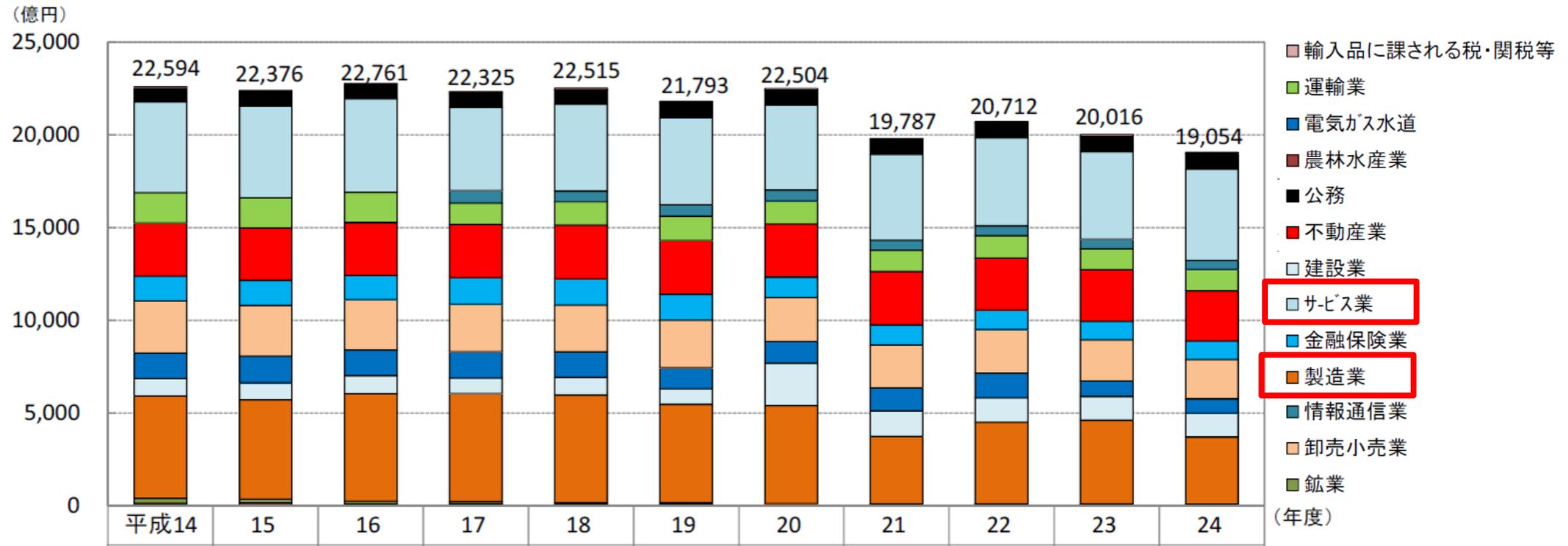
利用しやすい人の割合(市街化区域内)

保育園	幼稚園	子育て支援施設圏
86.7%	77.0%	99.1%



姫路市の現状（経済活動）

姫路市内総生産の推移



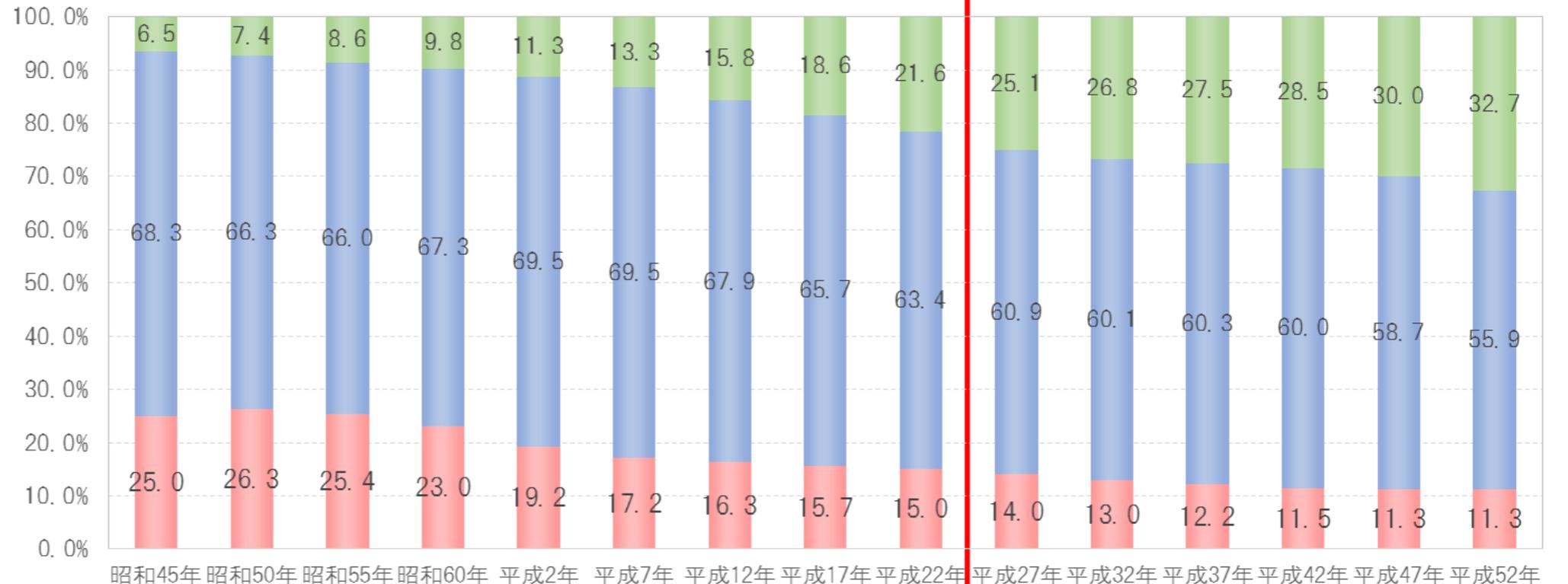
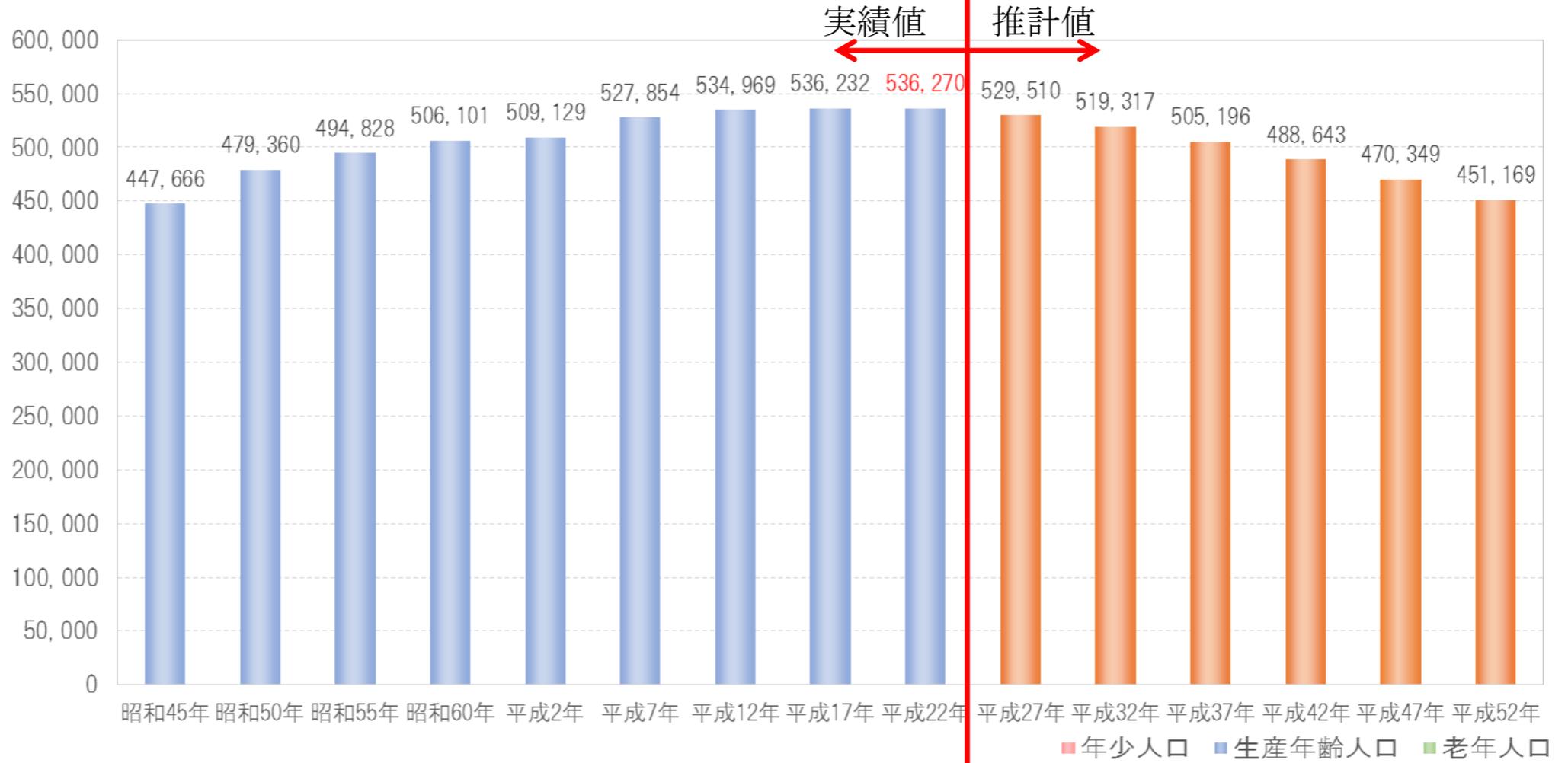
製造品出荷額等の上位20都市（平成24年）

順位	都市名	製造品出荷額等 (億円)	順位	都市名	製造品出荷額等 (億円)
1	豊田市	120,889	11	大分市	27,234
2	市原市	42,851	12	四日市市	26,849
3	横浜市(政)	42,736	13	京都市(政)	22,535
4	川崎市(政)	41,784	14	広島市(政)	21,987
5	倉敷市	41,440	15	浜松市(政)	20,853
6	大阪市(政)	35,221	16	姫路市	20,281
7	東京特別区	34,762	17	北九州市(政)	20,031
8	堺市(政)	34,575	18	太田市	19,959
9	名古屋市(政)	33,896	19	福山市	17,378
10	神戸市(政)	28,668	20	磐田市	17,216

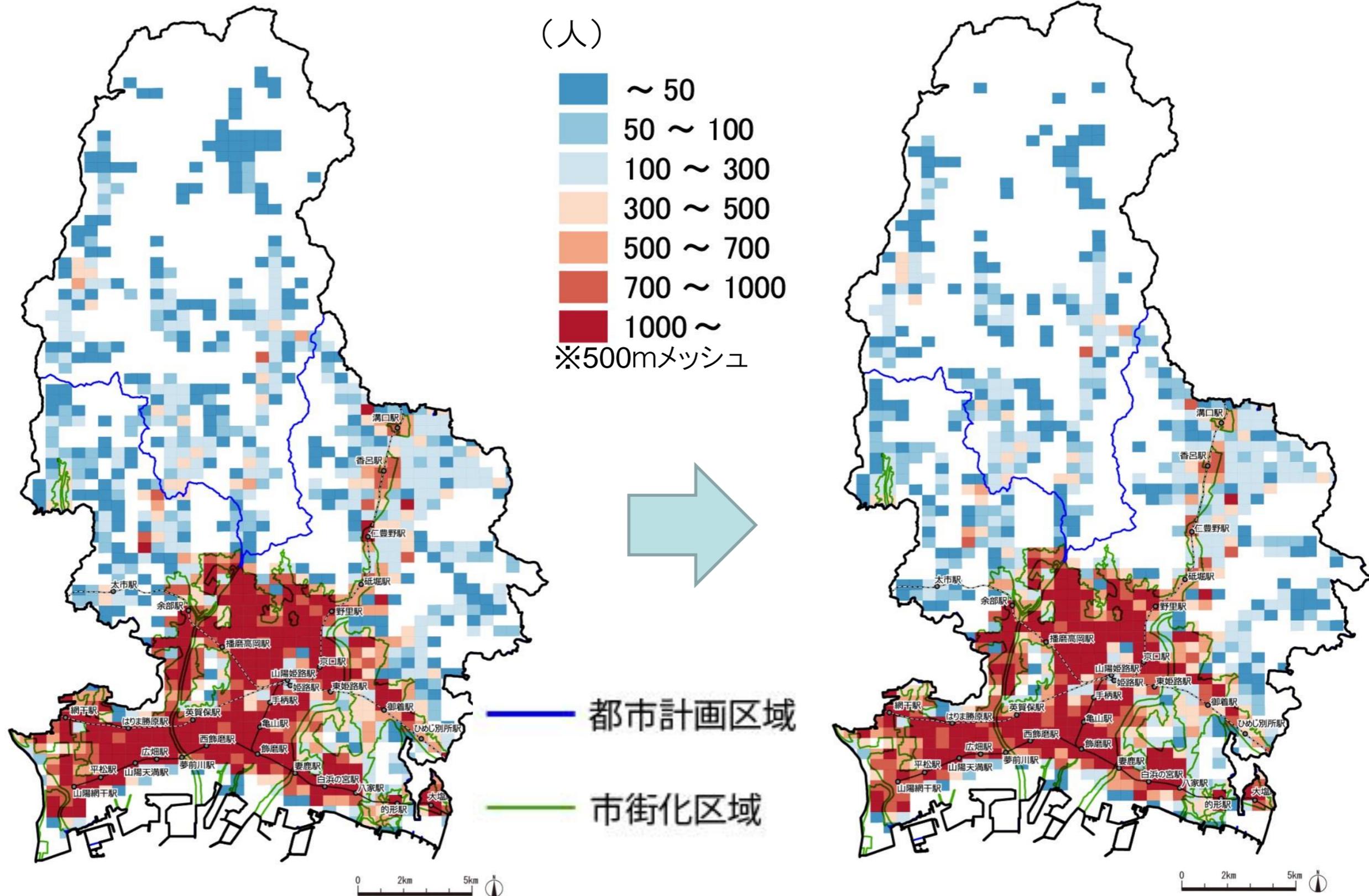
姫路市の将来人口

人口将来見通し

人口将来見通し
(年齢階層別)



姫路市の将来人口分布



現況人口
(平成22年(2010年))

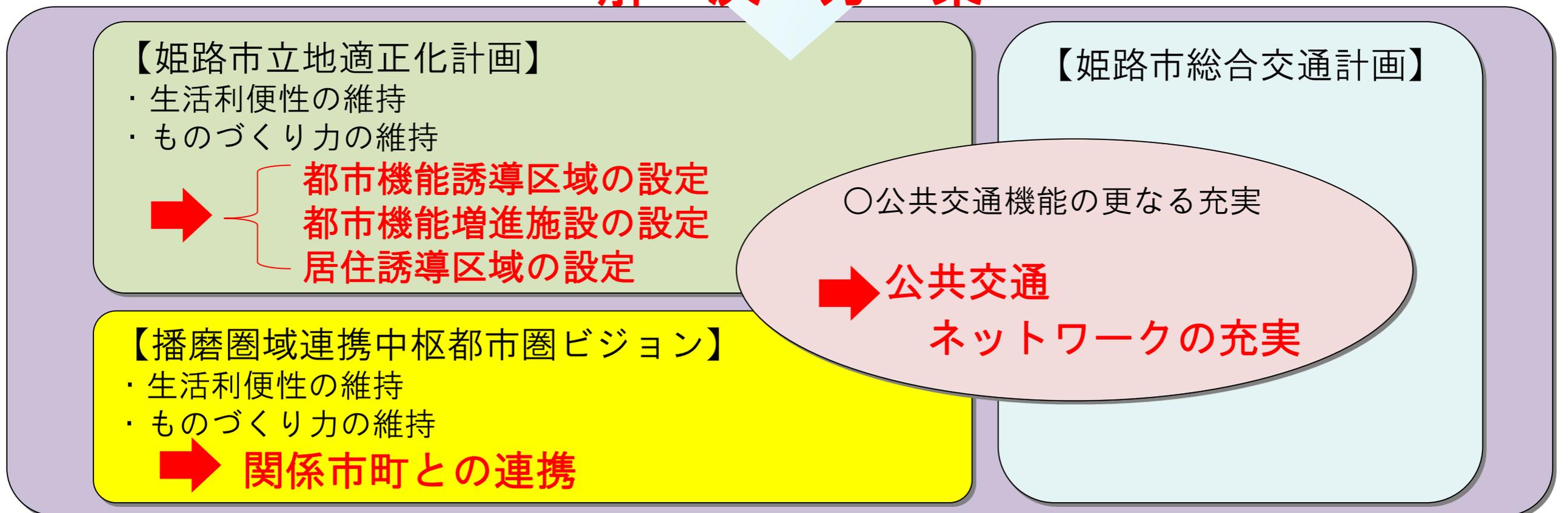
資料 国勢調査(平成22年)
国立社会保障・人口問題研究所(平成52年)

将来人口
(平成52年(2040年))

姫路市の課題



解決方策 (Solution Strategy)



今後のまちづくり方針

基本方針

【立地適正化計画が目指すまちづくりの方針】

「魅力と賑わいある住みよい多核連携型都市 姫路」

～連携中枢都市にふさわしい持続可能な都市構造を目指して～

目指すべき都市構造

方針 1

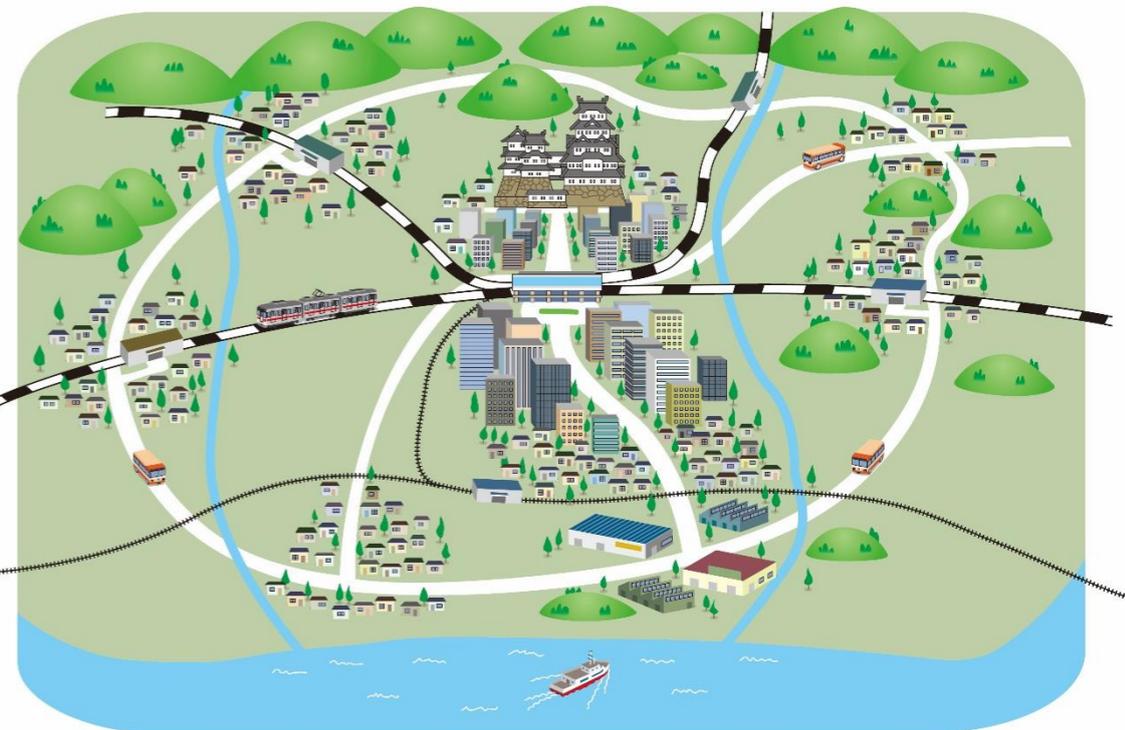
生活利便性に優れた都市環境を形成するまちづくり
鉄道駅周辺等に人口や都市機能施設が集積し、生活利便性の優れた「拠点」を形成することにより、快適で住みよい生活圏を構築するとともに、活力ある都心部を形成します。

方針 2

ものづくり力の維持・強化につながるまちづくり
都市機能の維持・確保を図ることで将来における生産年齢人口の減少を抑えるとともに、元気な高齢者の増加や子育て環境の充実等を図り、労働人口を確保することでものづくり力を維持・強化します。

方針 3

公共交通の維持・強化による交通利便性に優れたまちづくり
「拠点」を「公共交通」で連携させ、公共交通軸を形成することで公共交通の充実・強化を図り、市民生活における交通利便性を確保します。



都市機能誘導区域

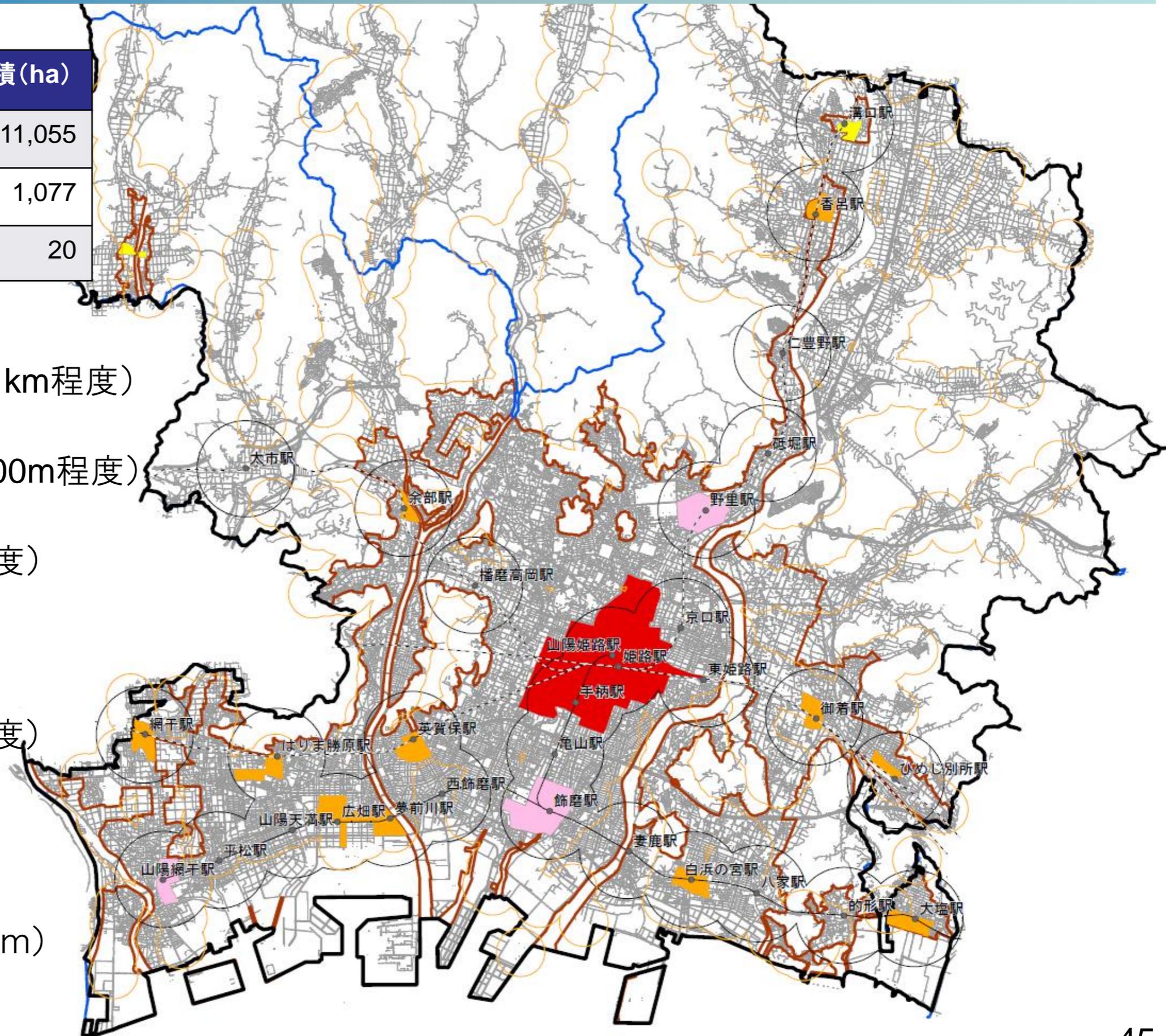
区域	面積(ha)
市街化区域	11,055
都市機能誘導区域	1,077
準都市機能誘導区域	20

【都市機能誘導区域】

- 中心拠点(半径1km程度)
- 副次拠点
(半径1km~500m程度)
- 地域生活拠点
(半径500m程度)

【準都市機能誘導区域】

- 生活拠点
(半径300m程度)
- 都市計画区域
- 市街化区域
- 駅(半径1km)
- バス停(半径500m)



都市機能増進施設

各拠点毎の都市機能増進施設

拠点種別	商業機能	医療機能	金融機能	法的な位置付け
中心拠点	①百貨店 ②総合スーパー ③各種食料品小売業 ①～③のうち商業床面積が 10,000㎡を超える店舗	病院	①銀行 ②信用金庫 ③労働金庫 ④商工組合中央金庫	都市再生特別措置法第81条第2項第3号に規定する「 都市機能増進施設 」
副次拠点	①総合スーパー ②各種食料品小売業 ①、②のうち商業床面積が 1,000㎡を超える店舗	①病院 ②内科、又は外科を診療科目とする診療所	①銀行 ②信用金庫	
地域生活拠点	①総合スーパー ②各種食料品小売業 ①、②のうち商業床面積が 500㎡を超える店舗	同上	①銀行 ②信用金庫 ③JAバンク ④郵便局	
生活拠点	同上	同上	同上	

※各拠点において、全ての施設の維持・確保を図るのではなく、何れかの施設の維持・確保を図る。

高次都市機能増進施設

高次都市機能増進施設

拠点種別	医療機能	教育機能	法的な位置付け
中心拠点	3次医療提供病院	医療・福祉系専門学校	都市再生特別措置法第81条 第2項第3号に規定する 「都市機能増進施設」
	文化・芸術機能	防災機能	
	文化交流施設	広域防災施設	

どんな施設？

3次医療提供病院

兵庫県保健医療計画に定める3次医療を提供する病院

医療・福祉系専門学校

医療又は福祉関連の専門課程、一般課程を置く専門学校

文化交流施設

客席数2,000 席程度のホールがある文化施設

広域防災施設

帰宅困難者の受け入れ機能がある公共施設

姫路市立地適正化計画総括図

[都市機能誘導区域]

- 中心拠点
- 副次拠点
- 地域生活拠点

[準都市機能誘導区域]

- 生活拠点

[居住誘導区域]

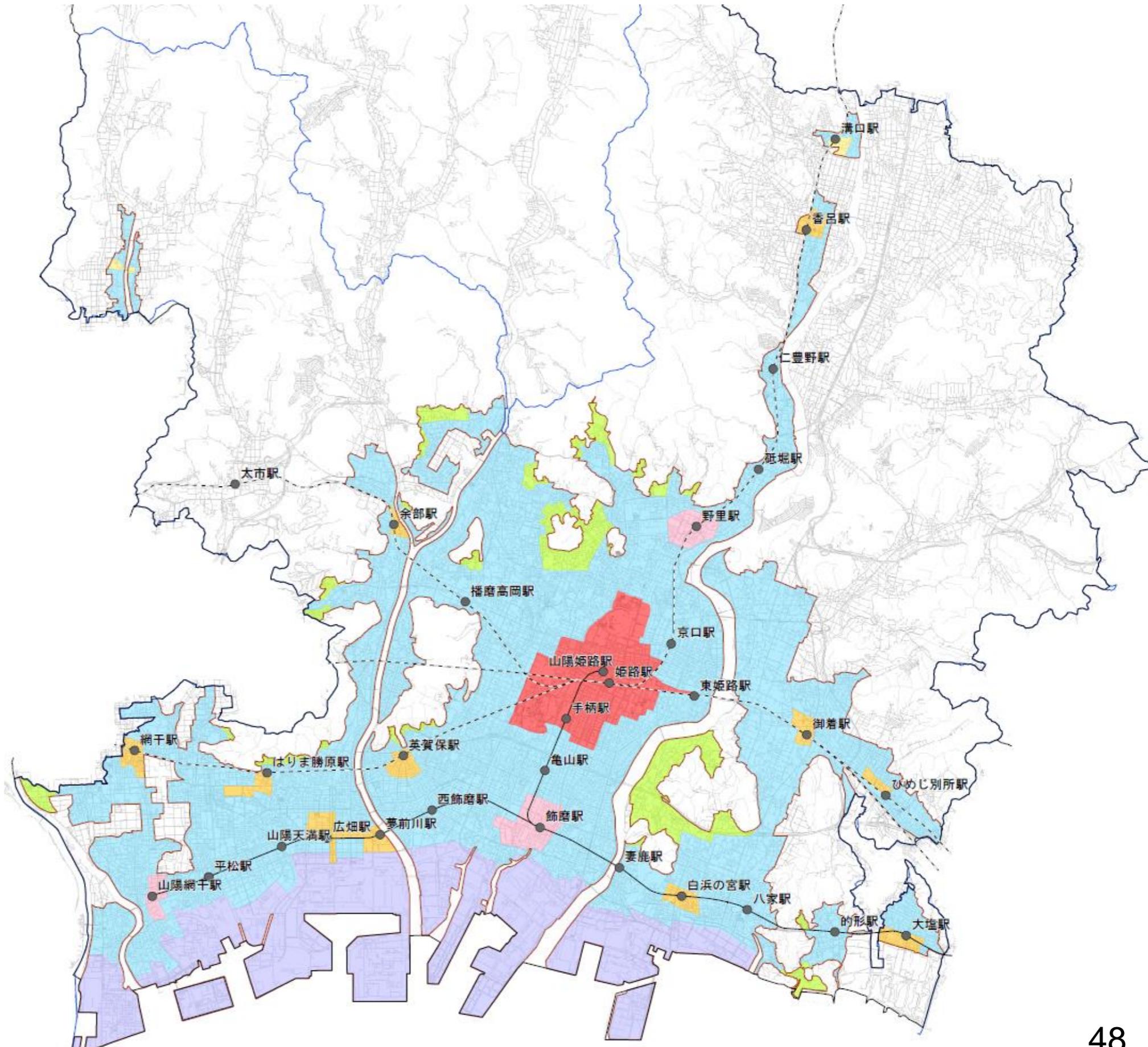
- 居住誘導区域

[その他区域]

- 居住環境保護区域
- 産業促進区域

— 行政界 — 市街化区域

⋯ 鉄道 ● 鉄道駅

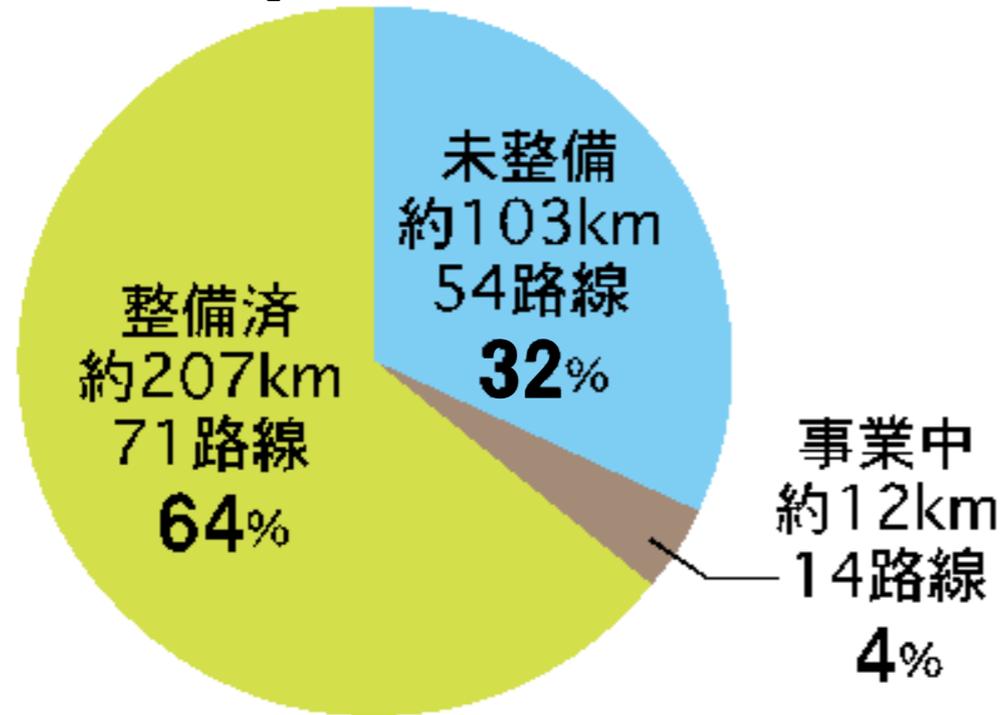


区域		面積 (ha)
市域		53,435
都市計画区域		30,753
市街化区域		11,055
都市機能誘導区域		1,077
準都市機能誘導区域		20
居住誘導区域		8,585
その他	居住環境保護区域	2,470
	産業促進区域	

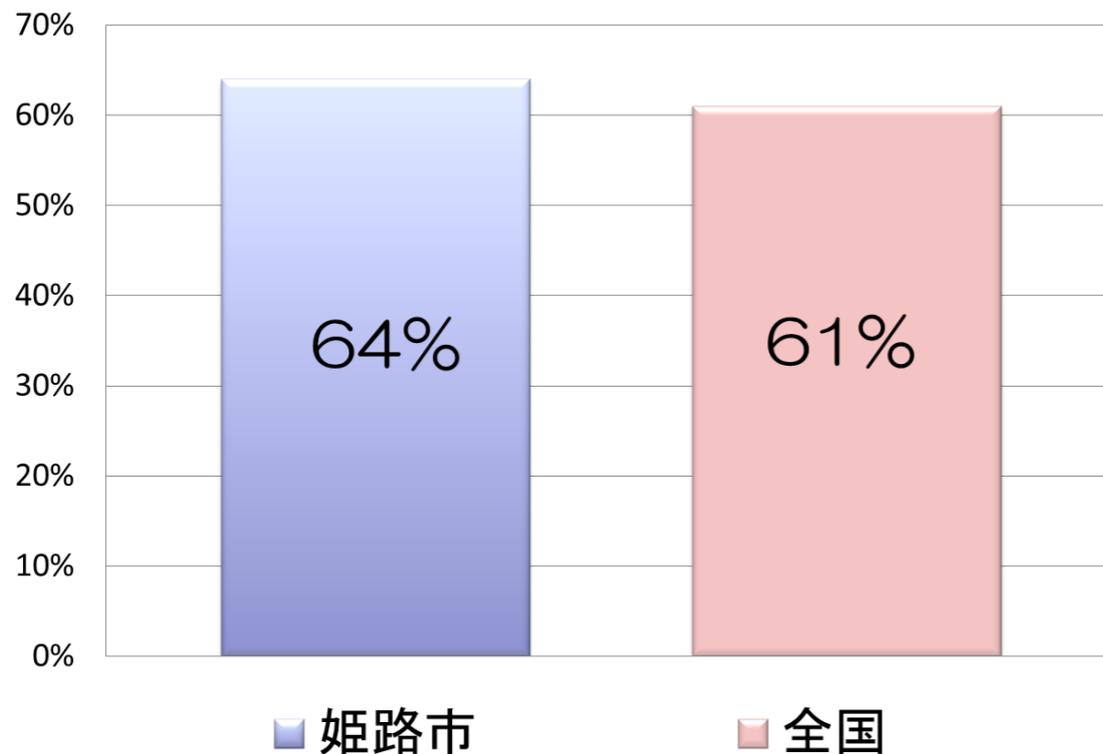
姫路市の都市計画施設整備状況 (H25.3現在)

都市計画道路

計画決定 [139路線 延長約322km]

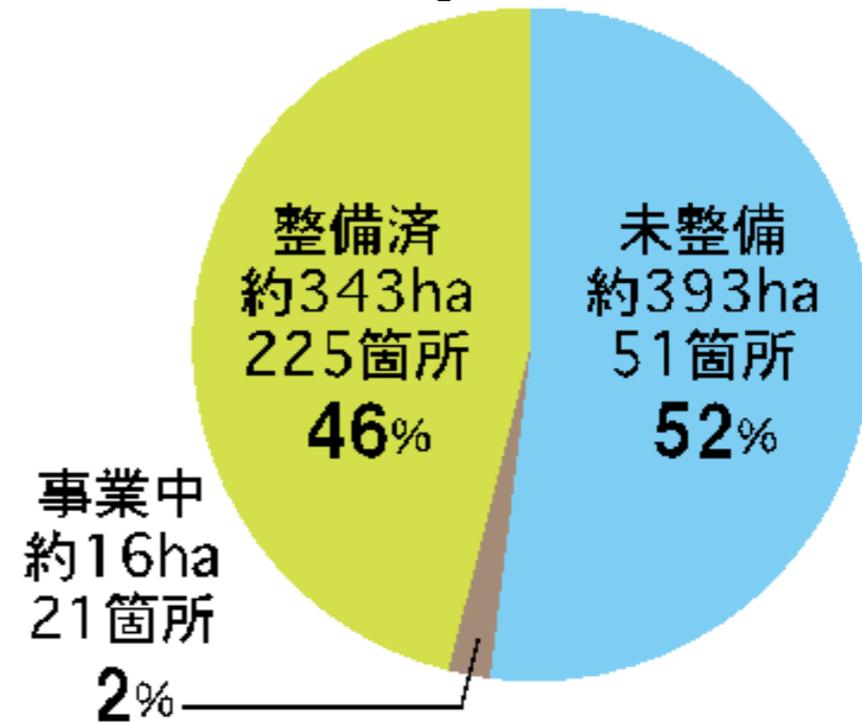


都市計画道路整備率

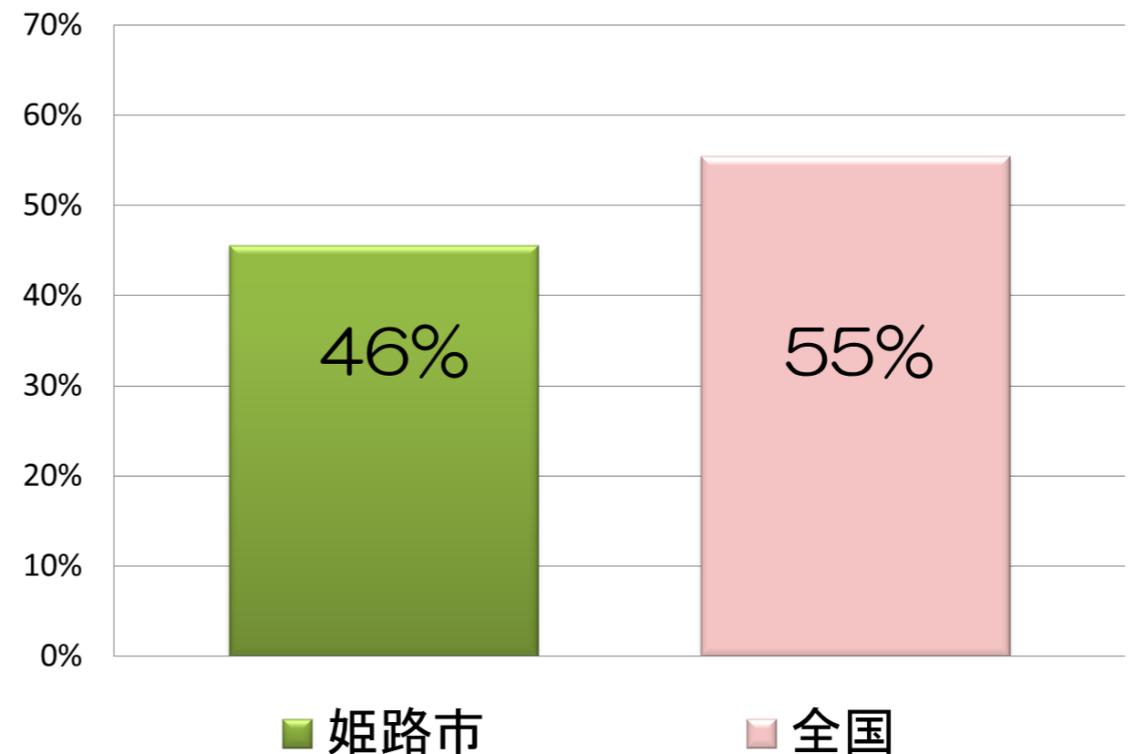


都市計画公園・緑地

計画決定 [297箇所、約752ha]



都市計画公園・緑地整備率



都市計画施設見直しの背景

計画決定時

【高度経済成長期】

人口増加、経済の発展…

都市の拡大を前提として計画決定

現在

■ 少子高齢化・人口減少社会の到来

■ 厳しい財政状況（社会保障費の増大、公共事業費の削減）

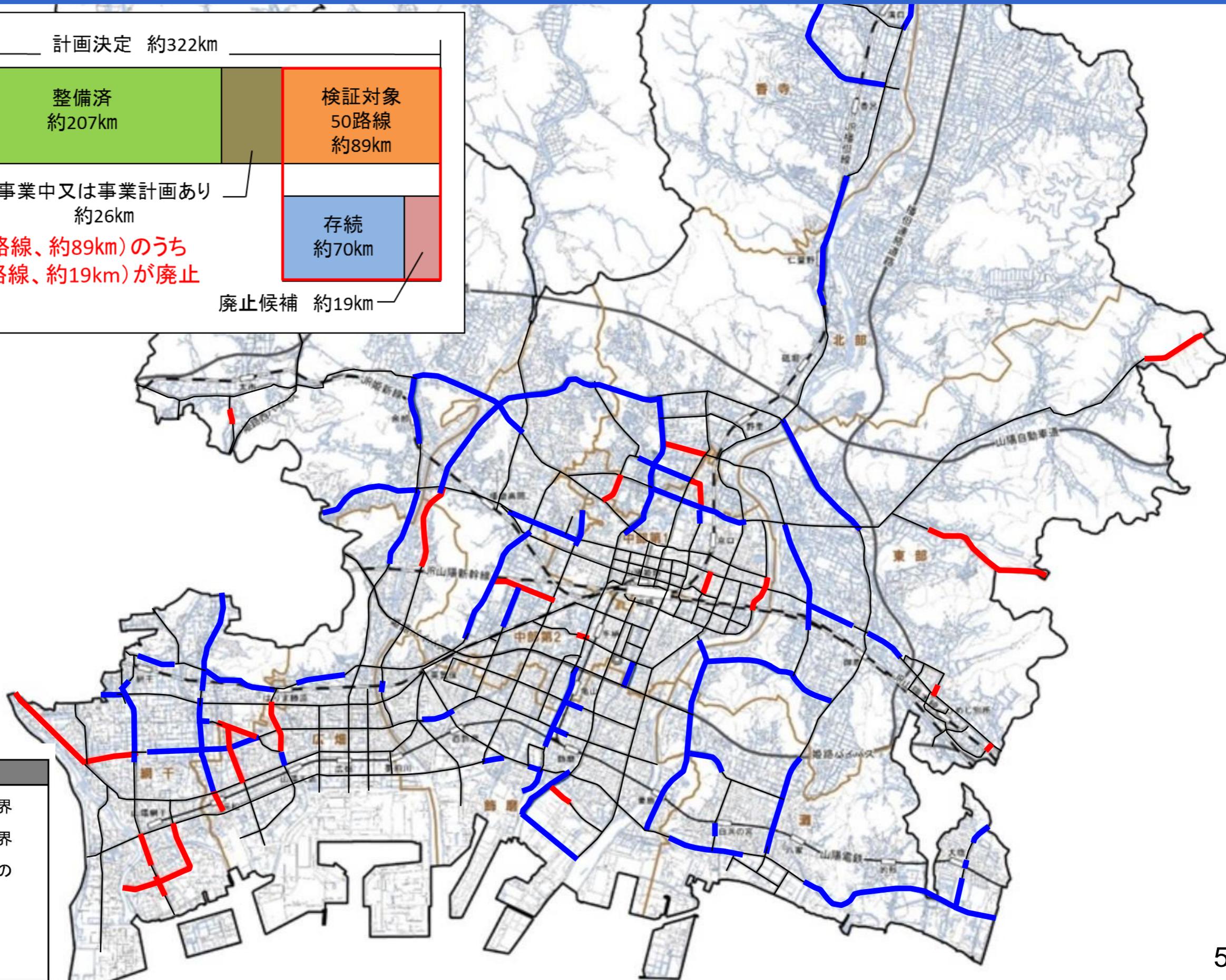
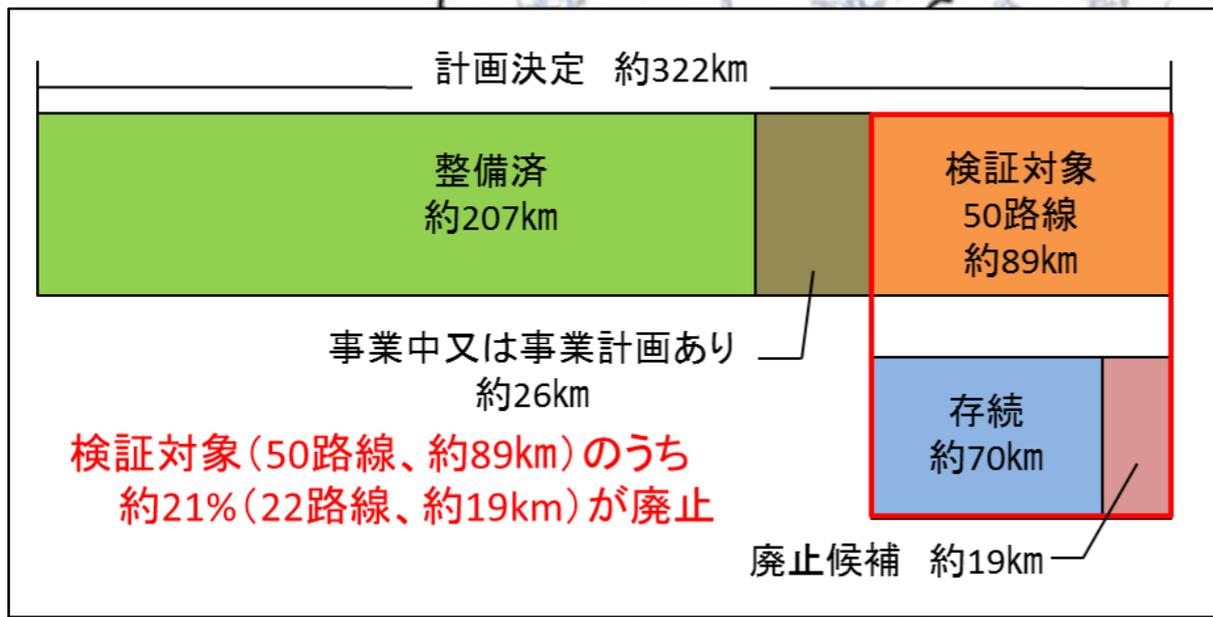
計画決定時から社会経済情勢が大きく変化

■ 長期間にわたり土地所有者の権利を制限（都市計画法第53条）

建築制限に対する司法の見解の変化

「選択と集中」による効率的で未来の市民に責任ある社会基盤の推進を図るため、改めて必要性などを検証し、適切な見直しを行う

都市計画道路見直し方針



凡例

- 都市計画区域界
- 地域ブロック界
- 見直し対象外の都市計画道路
- 計画の存続
- 計画の廃止

都市計画公園見直し方針

計画決定 約752ha

整備済
約343ha

検証対象
51公園
約393ha

事業中又は事業計画あり
約16ha

存続
約173ha

廃止
約220ha

検証対象(51公園、約393ha)のうち
約56%(43箇所、約220ha)が廃止



凡例	
	都市計画区域界
	地域ブロック界
	見直し対象外の都市計画公園・緑地
	計画の存続
	計画の廃止